

Press Release

2013.8

東京アートミーティング(第4回)

# うさぎスマッシュ展

デザイン

## 世界に触れる方法

2013年10月3日(木) - 2014年1月19日(日)



リヴィタル・コーエン & テューア・ヴァン・バーレン 《ライフ・サポート》 2008年

## 展覧会概要

---

現代アートと様々な分野の表現が会うことで、新たな可能性を探求する東京アートミーティング。第4回となる今回のテーマは「デザイン」です。本展で取り上げるデザインとは、市場の拡張のために絶え間なく生み出される「かたち」ではなく、私たちの周りで起きている問題に気づかせ、考える方向性を示唆するものとして捉えます。展覧会では、そのようなデザインの実践とアートの表現を「世界に触れる方法」として紹介します。

情報技術の発達により、私たちを取り巻く環境や情報網がより複雑化するなかで、私たちは迷ったり、知ることをあきらめてしまったりしていないでしょうか。この展覧会では、グローバル経済から遺伝子まで、現代社会にある様々な出来事やトピックを、私たちの手にとれる形にデザインして届けている国内外のアーティスト、デザイナー、建築家、21組の表現を紹介します。領域を横断して展開する彼らの実践は、私たちが生きる世界の状況を独自の仕方を読み込み、構築し、時には直感や想像力による思いがけない発想で、既存の知識体系や情報伝達のあり方を問い直そうとしています。マクロに広がる情報を集積して図解したり、匂いなどの通常では見えないミクロな領域を体感できる形にデザインしたりすることで、私たちに普段とは異なる世界の見え方や手触りをもたらします。展覧会は、視覚だけでなく、より総合的な身体的体験を通じて、潜在的な世界の可能性と、私たちが当事者としてより能動的に世界と関わる方法を考えるきっかけとなることを目指します。

今までの世界とは物事がまったく違って見えるという体験は、うさぎを追いかけているうちに別世界に足を踏み入れてしまった不思議の国のアリスに例えることができるでしょう。うさぎは私たちをワンダーランドへ誘い、常識的な見方や固定観念に一打(スマッシュ)を与える者の象徴です。それにより、普段とは異なる新鮮な驚きや発見がもたらされ、私たちの世界の捉え方が変わるかもしれません。展覧会タイトル「うさぎスマッシュ」は、そのような世界に対する別の入口への誘いを意味しています。

なお、本展覧会は、共同キュレーターにデザイン史研究における第一人者の柏木博氏を、アドバイザーとして、商品デザインからこども教育番組まで多岐にわたって活動するグラフィック・デザイナーの佐藤卓氏、および最先端のテクノロジーからデザインの未来へのミッションを洞察するMITメディア・ラボ副所長の石井裕氏を迎え、歴史、現在、未来を横断する視点でつくられています。

\*本展は「東京文化発信プロジェクト」事業の一環として行います。

## 本展の見どころ

---

視覚だけでなく、匂いや触覚といった総合的感覚を通して世界を感知し、共に考察する、これまでの美術館展覧会の常識とは異なる体験を提示します。

政治、観光、金融から遺伝子まで、現代を構成する多様な分野の情報やシステムにアプローチし、それぞれを独自の視点で解釈・表現したデザインとアートのプロジェクトを紹介します。

グラフィックにとどまらず、教育番組のディレクションや21\_21DESIGN SITEのディレクター等、幅広いデザイン活動を行う佐藤卓氏が、展覧会場のデザイン・ディレクションを担当します。

ブラク・アリカン | Burak Arikian

アトリエ・ワン+東京工業大学塚本研究室+ 筑波大学貝島研究室 |

Atelier Bow-Wow + Tokyo Tech + Tsukuba University

ビュロ・デテュード | Bureau d'études

キャンプ | CAMP

リヴィタル・コーエン&テューア・ヴァン・バーレン | Revital Cohen & Tuur Van Balen

レアンドロ・エルリッヒ | Leandro Erlich

アレキサンドラ・デイジー・ギンズバーグ&サシャ・ポーフレップ |

Alexandra Daisy Ginsberg & Sascha Pohflepp

石井裕+タンジブル・メディア・グループ/ MITメディア・ラボ |

Hiroshi Ishii + Tangible Media Group/ MIT Media Lab

木村恒久 | Tsunehisa Kimura

マイケル・リー | Michael Lee

ミカエル・マッセイ | Mikael Metthey

OMA\*AMO

ライゾマティクス | Rhizomatiks

フェルナンド・サンチェス・カスティージョ | Fernando Sánchez Castillo

スプツニ子！ | Sputniko!

竹村真一 | Shinichi Takemura

シセル・トラス | Sissel Tolaas

牛込陽介 | Yosuke Ushigome

マーニー・ウェーバー | Marnie Weber

ジュディ・ウェルゼイン | Judi Werthein

リチャード・ウィルソン | Richard Wilson

\* 主な出品作家の略歴や出品作品についてはP4,5,9をご覧ください。

## 1. データを魅力的に視覚化する人たち

### ネットワークマップづくりの名手

**ブラク・アリカン**(1976年生まれ。ニューヨークとイスタンブール在住):

マサチューセッツ工科大学で学び、政治、経済、社会状況を、鋭い批評的視点であぶりだす「関係性」のマップで表す。出品作《モノバケーション》は、世界中の観光プロモーション映像からランダムに選んだものを、イメージー女性、海、太陽、人間関係ー友情、雰囲気ー平和などすべてにタグをつけ、巨大なネットワークマップをつくりあげた。どこの場所でも人々を魅了する観光イメージが同じであることに驚かされる作品。



### データをクールに視覚化

**ライゾマティクス** (2006年設立):

コンピュータ・プログラミングを駆使し、身近な現象や身体、コンピュータの思いがけない面白さを引き出す。テクノポップユニット、Perfumeのコンサート映像を手がけるなど、ウェブやインタラクティブデザインで最もクールなクリエイター集団として注目されている。



## 2. 先端の科学とアート、デザインをむすぶ人たち

### 人間と動物の新たな共生のありかたを問う

**リヴィタル・コーエン&テューア・ヴァン・パーレン**(2005年結成。ロンドン在住):

デザイナーとしての背景をもち、アーティストとして活動する彼らは、生物学に関する知識や技術を駆使し、身体や生命に対して人々がもつ常識に問いを投げかける。出品作《ライフ・サポート》では、人工心肺や透析などの機械による人間身体の代替機能を動物に代行させるというアイデアに基づいている。ドックレース用の犬の肺機能を、病を持つ人間の身体機能の代わりに用いる提案をイメージで見せることで、動物と人間の関係を問い直す。



### テディベアの意外な役割

**ミカエル・マッセイ**(1983年生まれ。ロンドン在住):

科学とデザインの間で仕事をするデザイナー。ユーモラスなデザインで、新しい科学技術が人々の生活にもたらす利便性と危険性の両側面に光をあてる。バクテリアやウイルス、恐怖感など、私たちが畏れ、克服しようとしている対象との関係を変えてしまおうとする。出品作《ボックス・テディ》(痘症テディ)は新タイプの水疱瘡予防注射で、テディベアのおもちゃの中に水疱瘡菌が仕込まれている、表面に痛くない極微細な注射針がついており、子供がさわっているうちに免疫ができていくシステムを提案している。



### 恐怖のにおいを採取、再現

**シセル・トラース**(1965年生まれ。ベルリン在住):

においをデザインするアーティスト。あらゆるにおいのサンプリング、分析、複製により、においがどのように解釈され、記憶や意味をつくるのかを問いかける。「戦争」やホームレスの体臭の複製など、滑らかなバーチャルイメージに慣れた私たちにリアルをつきつけるプロジェクトを展開。出品作は、「恐怖」のにおい、そしてメキシコや東京の都市空間のにおいによるマッピングを展示。



### 3. 社会常識をひっくりかえす人たち

#### 見る側と見られる側の対話

キャンプ(2007年設立。ムンバイ在住):

シャイナ・アナンド、アショク・スクマラン、サンジェイ・バンガーによるアーティスト・ユニット。映像アーカイブ、テレビ、監視カメラなど、現代メディアの閉じられたシステムや技術をより民主主義的な場へとひらくためのプロジェクトを行う。出品作《CCTV Social》は、マンチェスターの監視カメラの制御室に一般の人々が入り、そこで働く警備員と会話する様子を捉えた映像作品。安全とプライバシーのバランス、イメージの読み取り方など、見る側と見られる側の間で興味深い対話が展開される。



#### 本当のサバイバルのためのスニーカー

ジュディ・ウェルゼイン(1967年生まれ。マイアミ在住):

人権、アイデンティティ、移民や労働等をテーマに、しばしば問題の当事者たちと共にプロジェクトを展開するアーティスト。出品作《Brinco》(スペイン語で「跳躍」という意味)は、メキシコ北部からアメリカに越境を試みるメキシコ人たちのためにデザインされたスニーカー。コンパスと懐中電灯が付き、取り外しができるインナーソールには地図がプリントされている。プロジェクトは大きな反響を呼び、賛否両論のメディアの記録もあわせて展示される。



#### 月への「女の子らしい」第一歩

スプツニ子!(1985年生まれ。東京とボストン在住):

日々の中で抱くちょっとした疑問をきっかけに可能な未来世界の姿を、入念なりサーチをもとに、新しいテクノロジーデバイスを盛り込んだオブジェや映像で提案する。映像は自演でポップなプロモーションビデオの形式をとる。出品作《ムーンウォーク☆マシン、セレナの一步》は一人の女の子が自分の足跡を月面に残したいという希望を実現させるための物語である。NASAのリサーチ協力で作られた月面歩行マシンの模型、月面にハイヒールの足跡を残した写真、そこにいたる物語のビデオなどが展示される。



#### 調査データがそのままデザインになる

OMA \*AMO:

OMAは1975年にレム・コールハースを中心に設立された建築事務所。都市空間や社会についてのリサーチとそのデータを分析する独自の考察を設計に反映している。AMOはレムが主宰するシンクタンク/デザイン集団であり、グラフィックデザイン、出版などを通じ、都市や社会について実験的考察を行う。出品作《EUバーコード》は、EU加盟国の国旗の色を集約してデザインしたもので、実際に旗や様々なアイテムで使われている。「シアトル中央図書館」は、図書館を構成するものや活動をグラフ化し、それをデジタル化時代の図書館にふさわしいプログラムに再分類して、それをそのまま各部屋の機能や面積にわりあて、建築デザインとしている。



### 4. (文字通り)世界に触れる方法を提案する人たち

#### デジタル時代の新しい触覚

石井裕(1956年生まれ。ボストン在住):

マサチューセッツ工科大学メディア・ラボ副所長。本展アドバイザー。情報に物理的な実体をあたえて直接操作を可能にすることで、デジタルと身体境界線をこえることをめざす「タンジブル・ビット」という新しい概念を提案。ヒューマン・コンピュータ・インタラクション(HCI)の分野のみならず、デザイン、メディア・アートの分野でも活躍。出品作《in Touch》は、触覚で遠くの存在を伝達するインターフェイスであり、離れた場所にいるユーザーが同じ空間や物を共有している感覚をもたらす。また石井の考えをわかりやすく伝えるレクチャーパフォーマンス映像も展示する。








#### 触れる地球

竹村真一(1959年生まれ。東京在住):

文化人類学者。地球環境について独自の視点でアプローチしている。出品作《触れる地球》は、世界初のインタラクティブなデジタル地球儀。気象など地球のリアルタイムの様子や地震の発生状況、渡り鳥の軌跡などの情報を、触りながら引き出してみることができる。今の世界を身体で知るといふ竹村のコンセプトに共感する世界中の研究所、観測所から100以上の異なったプログラム、データがよせられており、現在進行形でコンテンツは拡張している。





展覧会名	東京アートミーティング(第4回)「うさぎスマッシュ展 <sup>デザイン</sup> 世界に触れる方法」
会期	2013(平成25)年10月3日(木)―2014(平成26)年1月19日(日)
開館時間	10:00～18:00(入場は17:30まで)
会場	東京都現代美術館 企画展示室3階、1階A室
休館日	月曜日(ただし10/14、11/4、12/23、2014/1/13は開館) 10/15、11/5、12/24、年末年始(12/28―2014/1/1)、2014/1/14
主催	東京都、東京都現代美術館・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、産経新聞社、東京藝術大学
協賛	ブルームバーグL.P. <b>Bloomberg</b>
協力	フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本  ブリティッシュ・カウンシル  、プロア財団  ナショナル・アーツカウンシル シンガポール  NECディスプレイソリューションズ株式会社、 アジア・カルチュラル・カウンシル  、 インターナショナル・フレーバーズ・アンド・フレグランス・インコーポレーテッド <b>IFF</b> 信越化学工業株式会社
観覧料	一般1,100円/大学生・65歳以上800円/ 中高生600円/ 小学生以下無料 * 20名様以上の団体は2割引 * 小学生以下のお客様は保護者の同伴が必要です。 * 身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方(2名まで)は無料 * 本展のチケットで「MOTコレクション」もご覧いただけます。
交通案内	東京メトロ半蔵門線・清澄白河駅B2番出口より徒歩9分 都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅A3番出口より徒歩13分
展覧会カタログ	『うさぎスマッシュ展 <sup>デザイン</sup> 世界に触れる方法 公式図録』(仮) 2013年10月中旬刊行予定 執筆／柏木博、佐藤卓、アンソニー・ダン&フィオナ・レイビー、リピット水田堯、 長谷川祐子ほか 発売・発行／フィルムアート社
お問い合わせ	03-5245-4111(代表)/ 03-5777-8600(ハローダイヤル) <a href="http://www.mot-art-museum.jp/">http://www.mot-art-museum.jp/</a> 東京都江東区三好4-1-1
キュレーター	長谷川祐子(東京都現代美術館 チーフ・キュレーター)
共同キュレーター	柏木博 (武蔵野美術大学教授・近代デザイン史専攻)
アドバイザー	佐藤卓(グラフィック・デザイナー) 石井裕(マサチューセッツ工科大学[MIT]メディア・ラボ副所長)
デザイン・ディレクション	佐藤卓
展覧会スタッフ	西川美穂子、崔敬華、小高日香理
同時開催	「吉岡徳仁-クリスタライズ」 「MOTコレクション」 * 会期はどれも10月3日(木)～2014年1月19日(日)
広報お問い合わせ	事業推進課企画係 広報班 野口玲子 r-noguchi@mot-art.jp TEL.03-5245-1134(直通) / FAX.03-5245-1141

【東京文化発信プロジェクト】

東京文化発信プロジェクトは、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。都内各地での文化創造拠点の形成や子供・青少年への創造体験の機会の提供により、多くの人々が新たな文化の創造に主体的に関わる環境を整えるとともに、国際フェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信していきます。

## 関連プログラム

### ○アーティストトーク

2013年10月5日(土)15:00-17:30(予定)

東京都現代美術館「うさぎスマッシュ展」会場 ※当日有効の本展チケットが必要です。  
参加作家(予定):ブラク・アリカン、アトリエ・ワン、真鍋大度、スプツニ子!、竹村真一、シセル・トラース、ジュディ・ウェルゼイン 他(英日逐次通訳)

### ○石井裕トーク

聞き手:佐々木俊尚

2013年11月3日(日)15:00-17:00(予定)

東京都現代美術館 講堂(地下2階) 参加無料

### ○竹村真一「触れる地球」デモンストレーション&レクチャー

2013年11月16日(土)・12月21日(土)13:00-14:00

東京都現代美術館「うさぎスマッシュ展」会場 ※当日有効の本展チケットが必要です。

### ○フォーラム「世界に触れる方法ーアートとデザインにできること」(仮題)

2013年12月7日(土)15:00-17:00

東京都現代美術館 講堂(地下2階) 参加無料

スピーカー:佐藤卓、柏木博、茂木健一郎、長谷川祐子

詳細は決まり次第HPにてお知らせします。

## 東京藝術大学における展示・講演会

主催:東京藝術大学、東京都、東京都現代美術館・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、産経新聞社

### 「SENSE of Wonder-ありふれたマテリアルのもうひとつの様相」展

鉄、木、ガラス、プラスチック、紙、木綿、コンクリート、水……人間の生活を支える身近なマテリアルを見つめ直し、ふだん見慣れた姿と違う“マテリアルのもうひとつの姿”を探り出す。本展では、東京藝術大学の教員と在校生が作品制作を通して、人に驚きを与え、発見を促し、好奇心と想像力を刺激し、時に、現代社会への辛辣な批評となるマテリアルのもうひとつの様相を提示する。同時に、学生たちが試みた素材の表現実験の成果を「マテリアルライブラリー」として展示。200点以上の素材サンプルが一堂に会し、触れる体験型展示とする。また、藝大デザイン科が北越紀州製紙株式会社と開発した機械抄紙過程でまったく化学薬品を使わない無添加の紙「すっぴん紙(仮称)」の展示も行う。

出品作家:

松下計、橋本和幸、鈴木太朗、西村雄輔、小野哲也、佐久間あすか、八木澤優記、小林裕子、中山開、鷹野健、佐々木里史、小島沙織、服部勇一、久保田沙耶、三木みどり

会期:2013年12月6日(金)-12月18日(水)10:00-17:00 会期中無休 観覧無料

会場:東京藝術大学大学美術館陳列館

企画:東京藝術大学美術学部デザイン科+絵画科油画

協賛:北越紀州製紙株式会社

協力:株式会社ナカダイ、理想科学工業株式会社、株式会社竹尾

### 講演会「版現実の美学ーデザイン、フィクション、ソーシャル・ドリーミング」

スピーカー:アンソニー・ダン(ロイヤル・カレッジ・オブ・アート、デザイン・インタラクションズ 教授)

日時:2013年10月10日(木)18:00-20:00 参加無料(逐次通訳)

会場:東京藝術大学上野校地 美術学部中央棟第一講義室

協力:ブリティッシュ・カウンシル ●● BRITISH

お問合せ先:

03-5777-8600(ハローダイヤル)

## 広報用図版

広報用として7点をご用意しております。  
掲載ご希望の方はお手数ですが別紙にご記入の上、FAXもしくはメールにてご連絡ください。



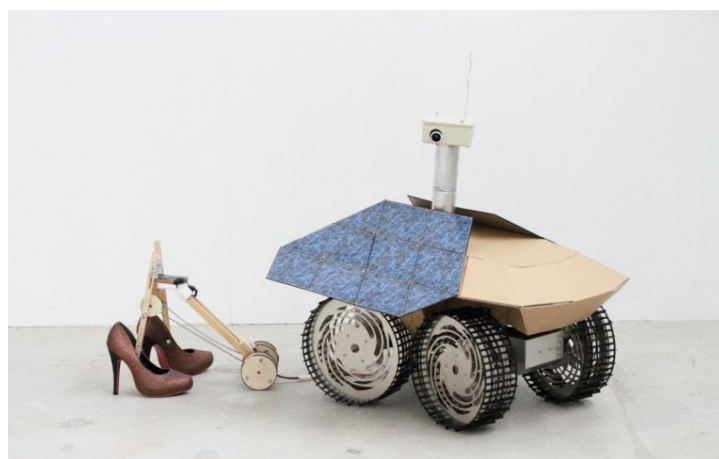
広報用画像①  
リヴィタル・コーエン&テューア・ヴァン・バーレン  
《ライフ・サポート》 2008年



広報用画像②  
ミカエル・マッセイ  
《ボックス・テディ》 2007年



広報用画像③  
ブラク・アリカン《モノバケーション》 2013年



広報用画像④  
スプツニ子！  
《ムーンウォーク☆マシン、セレナの一步》 2013年  
Photo: Rieko Igarashi

広報お問い合わせ先

東京都現代美術館 広報班

TEL 03-5245-1134(広報直通) FAX 03-5245-1141

野口玲子 r-noguchi@mot-art.jp





広報用画像⑤  
 マーニー・ウェーバー  
 《丸太婦人と汚れたうさぎ》2009年  
 Courtesy: artist and Simon Lee Gallery, London/Hong Kong

〈作品について〉

等身大のうさぎが丸太に座っている。よくみると丸太にはきれいにメイクした女性の顔が彫り込んである。うさぎと丸太婦人の間にはどんな会話が？ウェーバーはアメリカのフォークロアの物語を、現代の私たちの心理ドラマに投影する。等身大のうさぎはあなただと言わんばかりに、誰でもここから物語を読み込むことができる。



広報用画像⑥  
 レアンドロ・エルリツヒ  
 《ロスト・ガーデン》(Galería Nogueras-Blanchardでの展示風景)  
 2009年 Courtesy: Galería Nogueras-Blanchard, Madrid

〈作品について〉

窓辺に立つと、瑞々しい庭の草木のむこうにある二つの窓に自分の姿が映っている。この庭は本当に存在するのか？そして自分は本当に存在するのか？何人の自分がいるのか？エルリツヒのギミックは、トリックに終わらず、「失われた庭」という別の世界への入口に誘う。



広報用画像⑦  
 アレキサンドラ・デジー・ギンズバーク&サシャ・ポーフレップ  
 《栽培—組立》2009年

〈作品について〉

伝統的な植物画の描写方法を踏襲しつつ、遺伝子操作により除草剤を撒く機械パーツを实らせる植物を描いている。例えばサボテンのような植物の種はコネクターを形成し、瓜に似た植物は除草剤を入れるタンクとなる。合成生物学における理論と技術で遺伝子操作を行い、自然の新しい機能を追求するデザインの提案。

広報お問い合わせ先

東京都現代美術館 広報班

TEL 03-5245-1134(広報直通) FAX 03-5245-1141

野口玲子 r-noguchi@mot-art.jp

# うさぎスマッシュ展

広報用画像申込書

東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班宛

FAX. 03-5245-1141

本展覧会広報用素材として、7点をご用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はEメールにてお申込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

① キャプションは、作家名、作品名、制作年、コピーライト等を必ず表記ください。

② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。

本展記事を紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為に校正、掲載誌(紙)、DVD、CD等をお送りください。

媒体名: 『.....』

○印をおつけください

種別: TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー  
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日:

御社名:

ご担当者名:

Eメールアドレス:

@

(〒 - )

ご住所:

お電話番号:

FAX:

ご希望の図版番号に ✓ をおつけください。

- ① リヴィタル・コーエン&テューア・ヴァン・バーレン  
《ライフ・サポート》2008年
- ② ミカエル・マッセイ  
《ボックス・テディ》2007年
- ③ ブラック・アリカン  
《モノバケーション》2013年
- ④ スプツニ子!  
《ムーンウォーク☆マシン、セレナの一步》2013年 Photo: Rieko Igarashi
- ⑤ マーニー・ウェーバー  
《丸太婦人と汚れたうさぎ》2009年 Courtesy: artist and Simon Lee Gallery, London/Hong Kong
- ⑥ レアンドロ・エルリッヒ  
《ロスト・ガーデン》(Galería Nogueras-Blanchardでの展示風景) 2009年  
Courtesy: Galería Nogueras-Blanchard, Madrid
- ⑦ アレキサンドラ・デジー・ギンズバーグ&サシャ・ポーフレック  
《栽培一組立》2009年

プレゼント用招待券をご希望の場合は✓をおつけください。  10名様 /  20名様

広報お問い合わせ先: 東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班

野口 r-noguchi@mot-art.jp

東京都江東区三好4-1-1 TEL.03-5245-1134(直通) / FAX.03-5245-1141